

Title	科学技術推進をめぐるこれからの課題：研究開発とそれを支える思想について
Author(s)	
Citation	年次学術大会講演要旨集, 11: 304
Issue Date	1996-10-31
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5528
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	シンポジウム

シンポジウム

科学技術推進をめぐるこれからの課題 ー研究開発とそれを支える思想についてー

講 演

近 江 宗 一 (元大阪大学)

鈴 木 胖 (大阪大学)

山 本 通 隆 (サンフランシスコ市DMYアソシエーツ)

大 橋 良 介 (京都工芸繊維大学)

司 会

松 原 健 夫 (立命館大学)

趣 旨

「科学技術基本計画」には、研究開発推進の基本的方向が明確に示された。しかしこれを達成するには、多くの課題が残されている。

このシンポジウムでは、これらの課題の一部を取り上げて検討する。

- ・ 科学技術推進をめぐる論議について
- ・ 大学について (大学の果たすべき役割など)
- ・ V B 養成について (米国における V B 養成との比較など)
- ・ 人類・文化への貢献について (科学技術推進を支える思想をいかに見出すか)

日本の研究体制の充実のためには、大学も重要な位置を占める。個性化、多様化、競争原理導入など、いろいろと論議されている。個人の頭脳を尊重する姿勢も、創造立国のため大学が手本とならねばならない。

日本で、V B (ベンチャービジネス) がなぜ育ちににくいのか。米国との社会風土、価値観の違いは何か。米国では、10年間で2,400万人の雇用を創出している。エンジェル／メンターなどの起業家サポートの体制がまだ弱い。今後いかにして強化するかなどの課題は、時間をかけて討議する必要がある。

21世紀の科学技術はモノからココロや生命へ重点が移ると言われている。このような新ニーズに対応する次世代の科学技術の分野で日本が世界に認められるには、どうすればよいか。さらに、幅広い国民的合意の形成のために、研究開発についての哲学・思想をどのようにして見出すかなどの課題も重要である。

今回のシンポジウムは、科学技術推進をめぐるこれらの課題について総合的考察を行い、「科学技術基本計画」の展開に資したいと考える。